

令和元年度第4回 多摩市男女平等参画推進審議会 要点録

開催日時：令和元年10月31日（木曜） 19：00～21：00

場 所：TAMA女性センター 活動交流室

出席委員：広岡守穂委員、木本喜美子委員、安藤慎次委員、飯島明美委員、神子島健委員、
神山直子委員、堤香苗委員、真野文恵委員（会長・副会長以下50音順）

欠席委員：真野文恵委員

事務局：山本課長、西担当主査

傍聴者：3名

（発言者凡例：◎会長、○委員、◇事務局）

1 開 会

2 報 告

（1）令和元年度第3回男女平等参画推進審議会要点録（案）について

◇令和元年度第3回要点録（案）について修正等があればこの場でご意見を頂くか、
11月8日（金曜）までに事務局にご連絡を頂きたい。

◎この場では特になし。

（2）【報告】平成30年度「多摩市女と男がともに生きる行動計画」推進状況の外部評価 に対する市の考え方について

○「1 各種委員会等における女性委員比率について」の項目の中で記載されている
「行政内部自己評価の説明欄には、上記のように職指定による委員の選出を規定
していることが、女性や男性といった性別による委員の確保における課題である
という主旨で記載しましたが」の意味が分りづらい。

◇公正で質の高い審議を進めるためには職指定による委員選出が必要と考えられる
委員会等があるが、そもそも当該職には男性が就いている場合が多く、女性が少
ない状況である。その結果、数値的に女性委員比率が低くなってしまい、「高度
な専門性＝男性」という認識はしていないという主旨で記載した。

◎各種委員会等における女性委員比率については、市の改善に向けた試みもあると
のことだが、今後における市の具体的な改善策が示されていないため、ゼロ回答
だったと認識する。

一方、項目の2「女性を取り巻く悩みなんでも相談」事業について、3「TAMA女性センターの認知度について」は具体策が示されており評価する。また審議会の評価に対して市の考え方の提示という形で回答があったことに感謝する。

3 議 題

(1) 「多摩市女と男がともに生きる行動計画」改定に向けた「多摩市民意識及び実態調査」について

◇調査報告書 2015 資料 16 資料 17 に基づき、事務局から説明。

<調査全般について>

- ◎調査対象者数を前回調査から増やすことは、TAMA 女性センターの認知度向上や市の取組みのPR効果にもつながる。
- しっかりとした意図や考えをもっているのであれば設問の表現を変更してもいいと考える。
- ◎経年で分析する必要がある設問については、一言一句変えてはならないが、設問によっては経年比較を放棄し、情勢に合わせた選択肢になるよう変更してもよい。
- 新たに追加する設問項目については、法律の制定や改正、世の中の流れを踏まえたことなど、事務局としてきちんと理由付けしておくべきである。
- 平成 27 年度の調査の際に新たに追加した設問については、追加した経緯を過去の審議会の議事録等で確認し押さえておいたほうがよい。
- ◎「SOGI」などの用語を用いた設問を新たに設ける場合は、用語の説明をきちんと盛り込む必要がある。
- ◎単純集計では分析しづらい設問は年齢などとクロス集計を行うこと。また事前にクロス集計項目を調査会社と調整しておく必要がある。
- 全国調査との兼ね合いがある場合、選択肢を国のものと変えてしまうのは分析上よくない。
- ◇今回の調査はあくまでも多摩市のより実効性のある行動計画を策定することを目的とした調査であるため、全国調査との兼ね合いよりも市の独自調査という扱いでご審議いただきたい。

<設問や選択肢の新設・変更等、事務局案による審議内容>

「問 5 男女平等参画に関する言葉の周知」

- ◎経年比較項目でないことなどを踏まえ事務局案の『「多摩市女と男の平等参画を推進する条例」を知っていますか。』のみの設問とする。他の項目で設問を追加するため、回収率の観点も踏まえここで設問数を減らす。選択肢は変更無しとする。

「問 9 実現のための重要施策」

- ◎事務局案の選択肢「男性の育児・介護休暇制度取得を促進すること」、「職場（上司や同僚）の理解を促進すること」を追加する方向で改めて次回の審議会で選択肢の表現など再確認する。前回調査との経年比較はしないこととする。

調査項目「子育てや教育について」「【新】SOGI（性的指向／性自認）について」

- 「学校」は学習指導要領に基づいて授業を行っている。仮に「学校の授業で積極的に行った方がよい」といった回答が多かったとしても学習指導要領に則してい

ないと学校に対しての要望や実現は難しい。このため、設問文は例えば「学校で教員が SOGI を意識した指導を行うことについてどう思うか」のようにしてはどうか。

「問 1 6 仕事上の悩み」

◎事務局案の選択肢「性的指向・性自認による悩みがある」を追加することとし、前回調査と経年比較はしないこととする。

調査項目「仕事・職場について」「【新】昇進・昇格について」

◎事務局案の設問「あなたは働こうえで昇進や昇格したいと思いますか」を新設することについて、女性活躍推進の観点からよいと考える。ただし、選択肢の文言については調査会社の助言を得るなど確認してほしい。

「問 1 8 職場での男女差別（有識者）」

◎事務局案の選択肢「性的指向・性自認に関する差別がある」を追加することはよいと考える。一方、追加することによりさらに「性的指向・性自認に関する差別がない」や「とくに性別による差別はない」といった選択肢を追加することも検討する必要がある。次回の審議会でも再確認することとする。

【新】調査項目「LGBT/SOGI 性の多様性について」

◎設問や選択肢の文言については国や他の自治体等で先行する調査を参考にしてほしい。

○設問で「性自認」という用語を用いる場合は、条例で位置づけている定義をきちんと記載しておくべきである。

○国の「人権擁護に関する世論調査」等で使用されている表現を参考にし、性の多様性に関する設問について検討してみるかどうか。

○「受け入れる」という表現について、例えば他人事であれば可でも自分事になると不可といったように総論賛成・各論反対のような場合もあるため、他の先行する調査を参考にしたほうがよい。

◎「同性婚」について設問を設けること自体は問題無いと考えるが、設問文に多摩市におけるパートナーシップ制度の導入などと併記することは調査手法として不可である。

「問 2 1 「TAMA女性センター」の周知・利用について」

◎事務局から選択肢の変更、追加の案があったが、経年比較の観点からとりわけ変更する必要はないと考える。

「問 2 1 付問 施設運営上の要望事項」

○事務局案の追加選択肢「専門の民間事業者に運営を委託すること」、「TAMA女性センターのような拠点施設は必要ない」は、何か市の意図や導きがあるののではないか、男女平等参画推進が後退してしまうのではといった意図として取られてしまうのではないか。

◇民間委託化や拠点施設廃止といった意図はない。

◎次回の審議会でも改めて審議することとする。

【新】問 2 1 付問 「TAMA 女性センター」の名称について」

- 設問を新設すること自体はよいと思う。一方選択肢案にある「変えたほうがいい」の後に具体的な提案名を求めてしまうと、回答にあたっての負担が増すため「わからない」に回答が偏ってしまうのではないか。提案してもらうことはよいことであるため、最後にしてもいいのではないか。

「問 22 災害に強いまちづくりの重要施策」

- ◎昨年本審議会から市へ「災害時における TAMA 女性センターの役割について」提言したことも踏まえ、事務局案の選択肢「TAMA 女性センターの拠点機能の強化」を追加してよい。ただし、経年比較は放棄することになる。

「問 23 今後市が推進する施策について」

- ◎事務局案の選択肢「性の多様性についての意識啓発」を追加すること自体はよい。ただし、既存の選択肢「とくにない」を「男女平等・男女共同参画に関心がない」に変更するかどうかについては次回の審議会で改めて審議する。

「F1 性別」

- 選択肢「その他」については、他の調査を参考にして説明を補足等してほしい。

「F4 【新】付問 2 共働きしている理由」

- 事務局案の付問「あなた方ご夫婦が共働きをしている理由はつぎのうちどれですか」について、「あなた方ご夫婦」といった表現ではなく「配偶者」にしたほうがよい。また、提案選択肢の「自由に使えるお金を増やしたいから」は「より経済的に豊かな生活を送りたいから」のようにしたほうがいいのではないか。
- 「自由に使えるお金を増やしたいから」という選択肢は過去から論争がある。多くの人は生活のために共働きをしていると想定されるが、「生活のため」と回答することを嫌う人が多いことや、夫の稼ぎで十分生活できる社会であることを裏付けるために意図的に「自由に使えるお金を増やしたい」という表現で回答を導き出すというトリッキーな側面を持った選択肢としてこれまで用いられてきたことがある。この選択肢に回答が多いと「生活にゆとりがある」状況であるように見えてしまうため、この選択肢を設けることについてはかなり批判的に検討する必要がある。客観的な選択肢となるよう調査会社に確認してほしい。

4 その他

- ◎第 6 回推進審議会は令和 2 年 2 月 5 日（水）に実施することを決定した。